

1 学校運営の目標・方針

- 学校教育目標 ころ豊かに たくましく生きる 自立した生徒の育成
～互いに認め合い、磨き合い、支え合い、将来の夢につながる教育の創造～
- 経営基本方針 子どものために学校があり、子どものために教師があり、子どものために教育がある。
- 建学の精神 『自分をつくる ふる里をつくる 明日をつくる』

2 重点努力目標

- (1) 「生きる力」を育む教育の推進
「確かな学力」の育成 「豊かな心」の育成 「健やかな体」の育成 「キャリア教育」の推進 特別支援教育の推進
- (2) 子どもたちの学びを支える環境の充実
教職員の資質・能力の向上 学校の組織力の強化 教育環境の整備・充実 家庭と地域による学校と連携した教育の推進

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学 校 運 営	教育目標(重点努力目標)をもとに、生徒への指導・支援を行っている。	A	A 生徒会スローガン「今輝け～限界突破～」を掲げ、生徒の主体性を活かした教育活動を展開することで、生徒は『自分をつくる』5つの取組を意識した学校生活を送れている。 地域(福祉施設・社会福祉協議会・手話サークル等)と連携した福祉体験活動、親子でのPTA奉仕活動等、コロナの5類移行に伴い、以前の活動が戻りつつある。 連携・協働の核となる生徒指導担当を中心に、情報の共有と指導の手立ての統一を図ることで、生徒の落ち着きのある学校生活を守れている。 不登校傾向や別室登校の生徒がおり、その保護者を含めた個別対応を丁寧に継続しているが、すべての生徒と向き合う機会の確保の工夫が必要である。 多様化・複雑化する進学システムに対応した進学指導ができています。兵庫版「キャリア・パスポート」の更なる効果的な活用を考察し、キャリア教育の充実を図る。 災害の種類や程度に応じた方法での避難訓練に加え、学校以外で災害に遭遇することを想定し、PTAや地域住民と協力して、共通理解を図っておく必要がある。 「個人情報あまり守られていない」生徒1人、保護者3人。迅速な新校務支援ソフトへの対応に努め、個人情報の管理を徹底し、この評価項目の100%をめざす。 ノ一部活デーの設定をはじめ、新しい部活動の在り方がかなり浸透してきている。ただし、佐用町における地域移行に関しては、困難を極めている。 佐用町独自の教育的価値の創造をめざして3年。生徒、保護者、教職員のすべてが、概ね満足している。佐用中の小中連携の核である「創自レクチャー」も、他校で広がりを見せている。 すべての教職員による定期的な点検の徹底と、必要な修繕は迅速に対応し安全を確保している。ただし、来年度で50周年を迎える校舎は、かなりの老朽化が進んでいる。
	行事やPTA活動等を通して、保護者・地域と一緒によい学校づくりに取り組んでいる。	B	
	校内生活や登下校指導を全職員で行い、生徒が互いに思いやり、安全で心安らぐ学校づくりに取り組んでいる。	A	
	日頃から、生徒が安心して相談できる信頼関係や、相談体制が構築されている。	B	
	生徒一人一人の適性や興味関心等を理解した上で、卒業後のよりよい進路実現に向けた指導・支援を行っている。	A	
	教職員全体で、いざというとき迅速に子どもを守り安全確保ができる。	B	
	紛失・誤廃棄・不正アクセス防止に努め、学校・生徒・家庭の個人情報管理を徹底している。	A	
	心身の健康と安全に配慮し、生徒自らが成長とやりがいを感じる部活動を行っている。	A	
	異校種や地域と連携しながら、義務教育9年間の学びの連続性を踏まえた、教育活動を進めている。	A	
日頃から、生徒が安全に使用できる学校施設・備品の管理を行っている。	A		
教 育 課 程	学びの喜びを実感させ、生徒の意欲を高める授業を実施している。	B	B GIGAスクール構想等により整備されたICT環境を適切に活用し、学習活動の推進を図っている。教員のICT活用指導力の向上にむけ、実践的な校内研修等が必要である。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、生徒個々の課題に対応した授業改善を進める必要がある。 昨年度に引き続き、講師招聘の校内研修を年3回実施。ペア活動を多く取り入れ、対話により考えを深める授業展開を推進している。来年度は、指定研究の実践発表会が控えている。 縦割り班活動を有効活用することで、ほとんどの生徒が「達成感」「充実感」を味わっている。しかし、コロナ禍を機にどこまで行事の精選ができるか、検討の余地がある。 生徒1人1台端末で、高速大容量の通信ネットワーク環境が整備された。端末を日常的に活用できるよう、学校と家庭の両方でその体制づくりが必要である。
	指導と評価を一体化させ、すべての生徒が分かりやすい授業づくりを行っている。	B	
	同僚とともに教材分析や指導法を工夫し、主体的で対話的な、深い学びにつながる道徳の授業を展開している。	B	
	生徒が自主的・積極的に活動し、心身の健全な育成につながるように、行事の精選と内容を工夫している。	A	
	生徒が日常的に学習や情報収集できるよう、パソコンやタブレットを用いて、学習活動の工夫と充実を図っている。	A	
課 題 教 育	すべての領域において、生徒が自他の違いや多様性を認める人権感覚を高め、一人一人のよさや個性を伸ばす教育活動を進めている。	B	A 前年度比、唯一評価を下げた項目。職員研修等を定期的の実施し、まず教職員一人一人の人権意識を高め、ウェルビーイングの向上をめざす。 県民の参画と協働による兵庫型「体験教育」は、生徒に好評である。更に事前・事後指導の充実を図り、体験活動に対する意欲や目的意識を高める。 学校での避難訓練や防災学習に加え、「生徒引き渡し・緊急時連絡カード」を活用した引き渡し訓練を実施し、防災・減災への意識づけをする。 特別支援委員会を定期的に開催してすべての教職員の共通理解を図り、兵庫型学習システムによる同室複数指導等、個に応じた指導・支援に可能な限り取り組んでいる。 養護教諭が、保健だよりや掲示板を活用して、健康教育や健康情報の発信に努めている。今年度はすべての学年において学級閉鎖があり、今後も感染防止対策を継続する必要がある。 本校の特徴的な取組である清掃活動『創自』。自分と向き合い、心を磨き上げるとともに、縦割り班でその思いを後輩に伝え、達成感や成就感を高めている。
	生徒の達成感や自己有用感を高める体験活動(わくわくオーケストラ・トライやる・ウィーク・修学旅行・ボランティア活動等)を推進している。	A	
	災害特性を理解させ、自他の命を守るために、主体的に行動する生徒の育成を進めている。	A	
	特別な支援や、個別的教育課題に対応した指導を継続し、すべての生徒が支え合い認め合える学校づくりを進めている。	A	
	感染症について正しく理解させ、感染予防と衛生環境づくりに取り組んでいる。	A	
	人やものへの感謝の心を育て、責任感を育む清掃活動を進めている。	A	

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・現在の評価方法が確立して3年。情報過多にならないよう、アンケート結果のグラフ化は廃止されたが、特に問題はない。自己を振り返り、目標を定め直す良い機会となっている。
- ・三者(教職員・生徒・保護者)の自己評価におけるアンケート項目が連動しており、意識の共通点や相違点が比較しやすい。ただし、数値だけで評価してはいけないアンケート項目もあるので、数値に表れない部分をしっかりと見ていく必要がある。

5 総合的な学校関係者評価

- ・引き続き、三者(教職員・生徒・保護者)の意識の違いを分析し、指導に活かしながら、地域・保護者とのより一層の連携を期待する。対話を重視した道徳科の研究実践の成果が、生徒たちの姿に表れており、すべての教科で活発な授業が展開されている。
- ・不登校傾向や別室登校の生徒への対応が、佐用中の継続課題である。ただし、さらに専門機関との連携を密にし、教職員の負担軽減の工夫で、すべての生徒と向き合う機会を確保することは大切である。
- ・何か一つ熱中できるものがあれば、学校を好きでいられる。そんな学校であってほしい。

6 学校自己評価結果に対する学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育目標の実現に向けた、教職員の意識の高まりを感じる。更なる教育活動の充実を期待する。
すべてコロナ前に戻ることが良いとは限らない。教職員の負担軽減を考慮し、カットできる行事はカットしてほしい。
学校内でのルールは守れているようだが、登下校時の家用車による送迎の多さが気になる。生徒だけでなく、保護者の意識改革も必要である。
配慮を必要とする生徒は、今後も増加傾向にあると考えられる。今以上に、専門機関との太いパイプづくりが不可欠である。
前年度比5.9%アップで評価を上げているが、保護者にとって進路が一番気になる。マイナス評価に対して策を講じる必要がある。
AEDの設置場所や使い方等、さらには心肺蘇生法について生徒が知っておくことも大切である。
生徒や保護者に対して、知らないうちに「あまり守られていない」と思わせていることを、教職員は自覚する必要がある。
部員数や活動時間が減少する中、子どもたちはよく頑張っている。地域移行に関しては、町教委を中心に町全体で協議していく必要がある。
知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身につけられるように、小中9年間を見通した系統性のある教育活動を期待する。
老朽化が進んでいるのは事実だが、常に床がきれいに保たれている。生徒の日々の清掃活動の成果だと感じる。
個に応じた指導の充実、学力の質の向上、個性の伸長を探索し、これからもわかる・できる・楽しい授業づくりを期待する。
AI技術の進歩が著しく、ますます適切な活用が求められる。提出課題の評価は、今まで以上に困難が予想される。
対話を重視した授業展開で、生徒が自分の発言に自信をもっていることは喜ばしい。引き続き、研究を進めてほしい。
コロナ禍のこの3年をしっかりと分析し、生徒たちの更なる成長をめざすとともに、社会問題でもある教職員の働き方改革をお願いしたい。
SNSやオンラインゲームの利用時間が長くなると、トラブルが発生しやすくなる。情報モラル教育に関する指導の徹底が重要である。
保護者17人、生徒7人がマイナス評価を示している。その原因を、しっかりと分析する必要がある。
生徒たちも楽しみにしている大きな行事。今後も継続を希望するが、トライやるの受け入れ先(事業所)の確保が難しくなっている。
災害発生時に教職員がどこまで落ち着いて対応できるか、が焦点である。佐用中は、登校坂が寸断されると「陸の孤島」となるが、ヘリが発着できる。
一人ひとりの多様なニーズに応じた取組で、組織的・計画的に不登校の未然防止や社会的自立をめざしてほしい。
コロナに加えてインフルエンザも流行している。気苦労が絶えないが、常に感染予防の対策が必要である。
清掃活動『創自』は、佐用中のよい伝統となりつつある。その輪が小学校、佐用町へと広がりを見せており、素晴らしい取組である。